

4年

ジャンプ

一宮市立瀬部小学校
4年生学年だより
平成20年1月号

今年もよろしくお願ひします

今年の漢字に「偽」が選ばれた年も終わり、新たな年が始まりました。3学期は1年の中で最も短く、わずか90日あまりですが、4年生の学習内容を確認し、定着させる上でとても大切な時期です。今年はいよいよ5年生になります。けれども、そのためには4年生までの学習の基礎をしっかりとしたものにしなくてはなりません。

学級担任3人も、一人一人の子どもが4年生の学習内容をしっかりと理解し、定着できるように心をひとつにして取り組んでまいります。ご家庭でも、一日も早く生活リズムを取り戻せるようにご協力いただけますようお願いいたします。



博物館の見学

今月の16日(水)の午後に一宮市の博物館に見学に行きます。社会では、自分たちの住んでいる一宮について学習してきました。博物館には、繊維産業の歴史の展示をはじめ昔のくらしや生活道具についての展示があります。教室で学習したものに実際に触れたり、見たりすることによって知識を深めることができると期待しています。

なお、当日の下校時刻は16時ごろの予定ですが、道路状況その他やむをえない事情により下校が遅れる可能性もあります。よろしくお願ひいたします。

「怒りをコントロールできない子の理解と援助」(大河原美以：著)より

たとえば、崖っぷちで子供たちが鬼ごっこをして遊んでいるとしましょう。崖に柵が無ければ、子供たちが落ちてしまうかもしれないので、保護するためには柵が必要です。この柵を設置するのは大人の役割です。これが「しつけ」の枠の部分にあたります。

子供が、この柵を乗り越えて遊びたいといったときにはどうするでしょうか？

「そっちは危ないからダメよ」と禁止します。

問題はその後です。子供は「嫌だ！向こうで遊びたい！ママなんか大嫌い！！」とわめくかもしれません。そこでどう振る舞うかというのが大事なところですよ。

「柵の向こうで遊びたいと言うなんて、わがままだわ。こんなこと言わないように厳しく叱らなくちゃ」と柵の向こうに行きたい気持ちごと悪いことだと叱る。

「わかった、わかった。もう、泣かないでね。じゃあ、柵を1m向こうにずらしてあげるね。」と妥協して、子供を泣き止ませ、親自身が安心する。

「柵の向こうで遊びたかったのね。残念、残念。がっかりだね。」と言いながら、「柵の向こうは行かれないよ」と静かに伝え、子供が自分の力で泣き止むまで泣かせておく。そして泣き止んだときに、「よくがまんできたね」とほめる。

あなたなら、どんな対応をしますか？(大河原さんの解説は右にあります)

プラネタリウムの見学

理科で星の学習をしていきます。実際に星を見て学習することができれば良いのですが、時間的にもなかなか難しい面があります。

地域には「一宮地域文化広場のプラネタリウム」がありますから、その施設を利用して学習していく予定です。

冬は1等星も多く、空気のシーイングも良く、寒いことを除けば星の観察にはとても条件の良い季節です。

親子で夜空を見上げて、いっしょにオリオン座や大犬座や冬の大三角を探してみたいでしょうか。



今月の予定

- 7日(月)3学期始業式
- 8日(火)給食開始・クラブ活動
- 15日(火)(代表委員会)
- 16日(水)月の時間割・博物館見学(午後)
- 21日(月)身体測定
- 22日(火)クラブ活動・CRT検査・スクールカウンセラー来校
- 24日(木)月の時間割
- 25日(金)尾書研巡回展
- 29日(火)避難訓練・(代表委員会)

- その後の主な予定
- 学校公開(2月4日から6日)
 - 持久走大会(2月5日)
 - プラネタリウム見学(2月22日)
 - 卒業式(3月19日)
 - 修了式(3月24日)

学習予定

- | | |
|----|-----------------|
| 国語 | くらしの中の和と洋 |
| 算数 | 調べ方と整理の仕方 |
| 社会 | 土地の特色を生かした伝とう工業 |
| 理科 | 星や月(3) |
| 体育 | サッカー型ゲームとかけ足 |
| 図工 | ハッピーカード |
| 音楽 | 様子を思いうかべて |



大河原さんの答えです。

の対応は、子供のネガティブな感情の存在を否定する対応ですが、一般的にはしつけとは、このように理解されています。

の対応は子供との葛藤に耐えられない場合に一般的にとられる妥協策で、一見民主的な親子関係に見えますが、子供のことも自分の不快感を収めることを重視しているかわりです。

の対応は子供とのネガティブな感情を大事にしながら、しつけの枠を崩さない対応です。

しつけとは、枠を曲げないでいられる落ち着きのある安定した強さと、子供のぐずぐずをよしよしできるゆとりのある優しさで成り立っています。つまり、「しつけ」とは、安定した大人が子供を愛することなのです。

私たち担任も、子供と接するときに、常に「強さ」と「優しさ」を持ち続けたいと思います。